



ZENBUTSU

全仏

No.
574

仏暦2554年11月
[2011年]



長野県蓼科高原・横谷溪谷の小僧さん——撮影 仏像ガール®

目次	被災地復興における宗教者の役割について
	玄侑 宗久(芥川賞作家 臨済宗福聚寺住職).....2
	シンポジウム参加者に聞く葬儀の意識調査結果.....4
	元祖法然上人800年大遠忌法要が開白.....7
	第31回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要.....7
	(財)仏教伝道協会主催 東日本大震災チャリティ・コンサートのお知らせ.....7
	加盟団体をゆく 第45回 華嚴宗.....8
	東京電力福島第一原子力発電所被災寺院対策の会 開催報告.....10
	日蓮宗「良縁の集い」開催.....10
	中国佛教協会から「救援基金」へ寄託.....12
	全日本仏教会後援 「東日本大震災犠牲者合同慰霊際」開催.....12



財団法人 全日本仏教会
JBF WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

被災地復興における宗教者の役割について

芥川賞作家 臨濟宗福聚寺住職 玄侑宗久

標記のお題をいただいたのだが、これはじつに難しい。それぞれ被災地からの距離の違いもあるし、個人の活動の傾向によっても違う。

一概に言えない、というのが真っ先に浮かぶ答えだが、それでは返答にならないと言われそうだし、もう少し考えてみよう。

今回の東日本大震災の場合、当初から津波によって夥しい人々が亡くなったことが全国に報じられた。

それを聞きつけ、あるいはテレビで見て、多くの宗教者個人や各地の仏教会などが、「読経ボランティア」にかけつけた。

被害の酷い地域ほどお寺も被災していて身動きがとれない。行方不明者も多く読経もままならない地元の僧侶たちに代わり、せめて枕経や茶毘諷経だけでもと、全国の多くの僧侶たちが遺体安置所や火葬場へと読経に向かった。

身元が確認できないご遺体の場

合、市町村の職員だけがつきそう、ことも多かったが、彼らや死者たちの寂寥を、少しでも慰撫するとはできたように思う。

ただ遠隔地から単独で来たような方の場合、「関係者以外はご遠慮ください」などと言われてしまうこともあったようだが、やはりその地域の宗教者の随伴があるだけで事情はまったく違う。好意でしかも無償で来ているとは言っても、基本的に宗教者と信者とは地縁を介して結びついているということだろう。

「葬儀の代行」を熱心にされた和尚たちも複数知っている。被災以後、張りつめたままだった人々の悲しみが、ようやく発露する場を得て泣き崩れる家族が多かったようだ。これもまた宗教者の大きな役割だったと思う。ただこの場合も、何らかの縁を頼って依頼されることが多く、単純に避難所に

ところが難しい。

そうした宗教者ならではの活動がある一方で、純粹に助っ人になりきり、一般のボランティアと一緒に瓦礫の片付けなどに出向いた宗教者も多かった。なかには道場単位で修行者たちを派遣したところもあり、これが被災地の人々やその地の宗教者にとっても喜ばれた。宗教者ならではの支援内容を考えるまでもなく、現場に行けば喫緊の課題は自ずと見えてくる。そしてまずは共感と感謝を得て、それから宗教的な救済に移るのも賢明ではないだろうか。

現時点（十月十日）では、多くの被災者は仮設住宅や借り上げ住宅などに落ち着いている。しかし落ち着いて見えるのは、一次避難所の体育館などのように苦悩が露出していいだけのことだ。仕事もなく、生活そのものを断絶され、人によっては家族も失った被災者たちの苦悩は、孤独になった分だけ厳しく今も続いているのだ。

そんな状況で非常に有効なのは、「傾聴ボランティア」などと呼ば

れる人々の活動である。

特に資格がなくとも、僧侶ならばコミュニケーションが仕事とも言える。しかし全く見知らぬ人を訪ねるにはそれなりの構えが必要だろう。そこで組織されたのが「Cafe de Monk」（カフェ・ド・モンク）。これは主に宮城県の僧侶たちが中心になり、仮設住宅にコーヒーとケーキを持って訪ねるというものだ。茶飲み話に文句を聞こうというのがその主旨で、「モンク」は修行僧と文句とをかけている。

特に仮設住宅に独り暮らしのお年寄りなどは、ある程度のコミュニケーションは保たれているものの、会話を飢え、買い物にも不便を感じている。さまざまな文句を言うだけでなくでもストレス解消になるだろう。こうした活動は、むしろ精神科の医師たちもしているようだが、彼らの場合、突然訪ねていくのは憚られる風情がある。そこへいくと宗教者は、自らの「行」として、も意義深い行為ではないだろうか。その際、大切なのは、あくまで

その行為を、布教の機会などと捉えないことだ。小冊子などを渡すくらいはかまわないと思うが、自宗の教えを蕩々と語るようなことは道義上も避けるべきだろうと思う。

とにかく「聴く」のである。かつてない規模の震災ではあるが、その被災の事情は個々それぞれにとっても異なっている。一般論が言いにくいのはそうした事情でもある。だから個別の話をとことん聴いて、心地よい受け皿になることが必要だと思う。

富士山の宝永の大噴火（一七〇七年）のとき、駿河の国は原の松蔭寺にいた白隠禅師は、檀家さんたちが何度避難を勧めにきても応じることなく、本堂で坐禅しつづけていたという。

このようなことは誰にでも勧められることではないが、これも一つの宗教者の在り方だと、私は思う。

実際、逃げたほうがいいのかどうかは、今回の放射能の汚染を巡っても難しい問題である。

原発の爆発を知り、あるいは知る前から、福島県から避難した人々が多い。三十キロ圏内には約六十のお寺があったわけだが、今はほとんど無住状態が続いている。そこに戻るのは当然無理だとしても、その周辺地域の比較的線量の低い地域にあっては、「宗教者がちゃんと施設にいる」ことこそ大事ではないか。そこに「居るだけで安心」を与えられるのも住職だろうと思うのである。

あるいは応仁の乱のあと、蓮如上人は賀茂川に放置された遺体の埋葬などを手伝うこともなく、ひたすら籠もって「白骨の御文章」を認めていたという。当然これも一つの生き方なのだろう。それだけの信念があるならば、それはそれで多くの被災者に光明をもたらす行為になり得るのではないだろうか。

やはり人により、地域の実情により、あるいは寺院の在り方によって、その活動内容はさまざまであっていいのだと思う。

ただ一つ、今回の震災を通じて

確実に言えるのは、我々宗教者は地域に密着すればこそその存在だということである。我々は、いわば地域コミュニティの中心的存在でなければならぬ。

今回の原発事故では、巨大な集約システムの無力が露呈した。当該町村の人々が故郷を追われただけでなく、その周辺地区でも広範な流通がいちはやく壊れ、頼りは近隣のコミュニティだけ、という事態が長く続いたのである。

むろん遠隔地の人々の援助はありがたかったし、今も大いに助けられているのだが、今後の地域での生活を考えると、我々は新たに「自治」を考え直さなくてはならないだろうと思う。

最小の基礎自治体を重視し、その「Country」と密接に関わるからこそ重要になってくるのではないか。Countryには人も自然も含まれるが、それは最も小さな「国」でもある。中世の禅の世界を席巻した「林下」の思想とは、そのような考え方はなかっただろうか。

玄侑
げんゆう
宗久
そうきゅう



photo by UGA

一九五六年福島県生まれ。慶応義塾大学文学部中国文学科卒業。

現在、臨済宗福聚寺住職で妙心寺派東京禅センター運営委員。花園大学、新潟薬科大学、客員教授。東日本大震災復興構想会議委員。二〇〇一年に著書『中陰の花』で第二二五回芥川賞を受賞。近著に『徹宗氏との対談『自然を生きる』（東京書籍）がある。

玄侑宗久公式サイト

<http://www.genyu-sokkyu.com/>

シンポジウム参加者に聞く

葬儀の意識調査結果

前号では「葬儀は誰の為にやるのか?②―お弔いとは―」の特集号として各講師の特別寄稿を皆様にご紹介しましたが、今回はご来場のお客様にご協力いただいたアンケートの集計結果をご紹介します。

調査対象…本会主催シンポジウム

参加者全般

調査方法…参加者全員へ選択式及び記述式のアンケート用紙を配布、回収



昨年に引き続き本年度二度目となるシンポジウム「葬儀は誰の為にやるのか?」(平成二十三年八月二日開催・秋葉原コンベンションホール)では、参加者の皆様のご協力をいただきアンケート調査を行った。本年のシンポジウムは、開催前に多くのマスコミに取り上げられたこともあり、本会が当初予想をしていた参加希望者数を大幅に上回る申し込みがあった。当日は三百六十九名が来場し、うち約七十五%の二百七十四名が寺院関係者を除く一般の方であった。今回のアンケートでは、参加者総数のうち約六十四%の二百三十六名分の回答を回収することができ、本会により分析を行った。

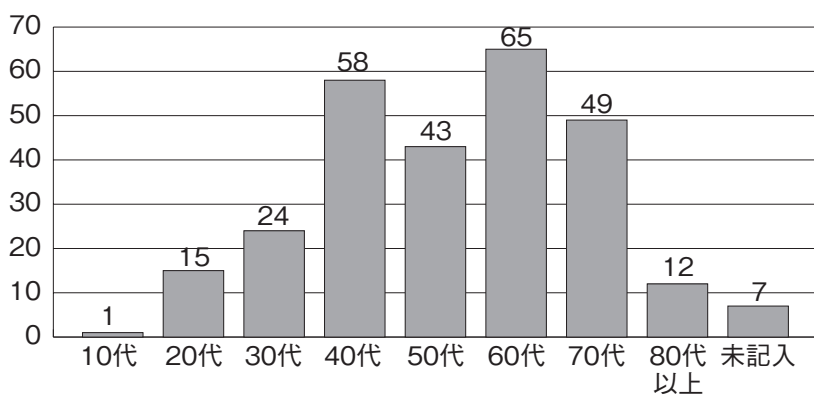
若い世代にとっても

「葬儀」は身近な問題

アンケートの分析の前に、まず

は当日のシンポジウムに参加された一般の方々を年齢別に分けた表を見てもらいたい※表1。「葬儀」というテーマで行ったシンポジウムではあったが、幅広い年齢層が参加していることがわかる。特に、比較的若い世代である四十歳代の参加者が目を引く。これは、自分の親の世代の葬儀を意識している

表1 一般参加者内訳 年齢別 (加盟団体・マスコミ関係者を除く)



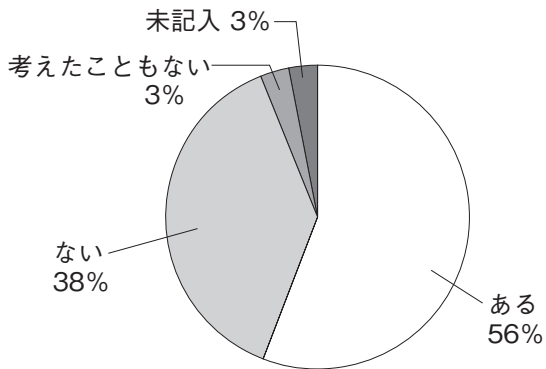
ため、仏事(特に葬儀)に関する知識を欲しているからではないだろうか。寺離れが進む昨今、こうした若い世代は、墓参りや寺の行事に参加して仏事に関する情報入手することはほとんどない。こういった現状を加味して考えると、本会を始め、多くの加盟団体で行っている仏教の教えを説くシンポジウムやセミナーは、今後さらに大きな意味を持つてくることになると考えられる。勿論、同時進行的に、こうした若い世代と寺院を結びつけるような方策も最重要課題として考えてゆく必要があるだろう。

金銭面に対する

不安が最も多い

ではアンケートの分析に移ろう。「自分自身または身近な人の葬儀に対して不安はあるか?」という選択式の質問に対して一般の方の意見のみを抽出したところ※表2(次頁)、実に半数以上の五十六%の方が「不安がある」と答えている。また、不安があると答えた方

表2 葬儀に対して不安があるか

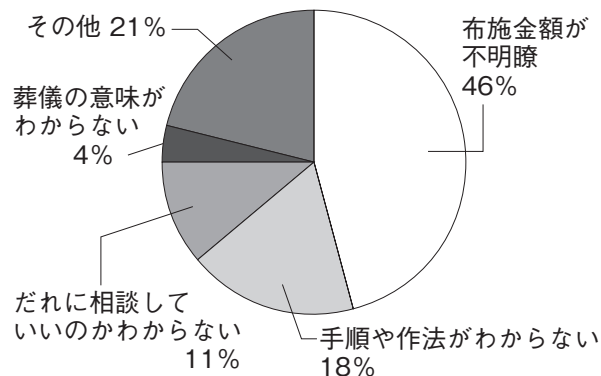


にその理由を聞いたところ※表3、「布施金額が不明瞭だから」と答えた方が最も多く、半数近い四十六%の方が金銭面に關する不安を抱えていることがわかった。一方、「葬儀の意味が理解できないから」と答えた方はわずか四%で、日頃から檀信徒に対して常に法話や説法で仏事の意味や作法等の説明を行っていても主たる葬儀の不安はそこではなく、特に金銭面にかたよったものであることがわかる。また、その他の意見では、「自分が死んだ後は墓を守る者がい

僧俗の意識のズレ

続いて、昨年大手企業が葬儀事業に参入し行った布施料金体系化問題について、僧侶と一般に分けて意見を集約してみた※表4・5。二つの表を比較しながら僧侶側の意見を見ると、六十七%の僧侶が布施料金体系化に反対しているのに対し、一般の方は半数以上の五

表3 葬儀にどのような不安があるか



い「葬儀を行うのは自分ではない、子どもが葬儀を出してくれるかわからない」といった現実的な問題がほとんどを占めていた。

表5 布施料金体系化に対して（一般）

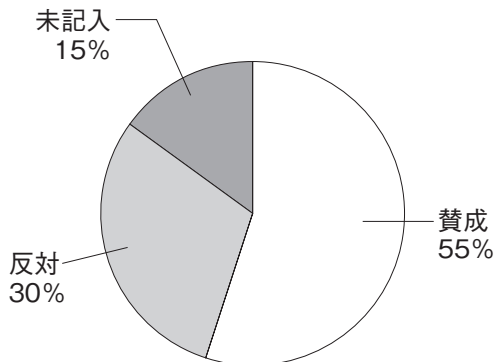
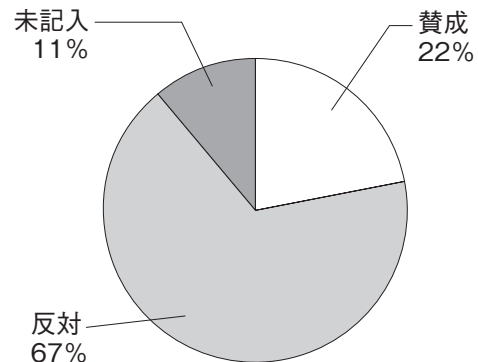


表4 布施料金体系化に対して（僧侶）



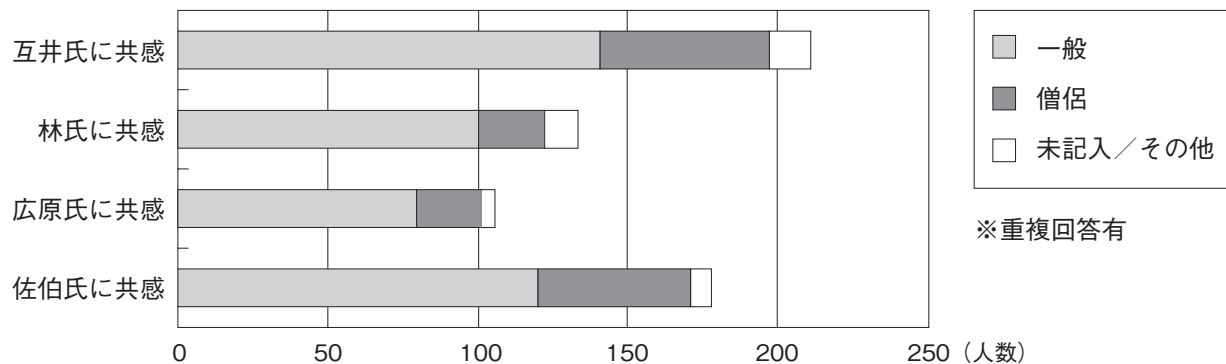
仏教界全体で

取り組むべき問題は

以上のことから、一般の方の多くは仏教の意味や教義に対して深

十五%の方が賛成しており、やはり僧俗の意識のズレが明確となった。そこで、前号のシンポジウム特集を参照した上で、各講師の講演に対してまとめたデータを見てもらいたい(複数回答可)※表6(次頁)。特に注目していただきたいのは、布施料金体系化に比較的賛成の立場から現代に合った葬儀を提案するおぼうさんどつとこむの林氏と、イオンリテールの広原氏の講演に対して共感された方のほとんどが一般の方であるという点である。ただし、一般、僧侶を問わず多くの方は布施の意味を重視し本来の仏教の教えをお話しされた互井氏に共感されている。同時に現実的な問題だけをクリアした新しい葬儀の形に対しても多数の賛同が得られているという結果にも注目しなければならない。

表6 各講師に対する共感者の内訳



い関心はあるものの、大切な方を亡くされた過大なストレス状況の中、金銭面や人間関係、時間的な制約等、多くの現実的問題に直面し、やむを得ず布施までパッケージ化された葬儀を選択しているのではないだろうか。

現在各宗派で取り組んでいる師弟教育や僧侶の育成といった取り組みは引き続き必要であると考えられる。一方で社会に目を向ければ、家族・地域コミュニティの崩壊、格差社会やいじめ等、様々な問題が渦巻いている。これらの問題を克服することができる可能性を秘めているのも仏教である。仏教、宗派、僧侶に期待されている要求水準は高いことを改めて認識すべきであろう。

この高い期待に応えるため、仏教界のみならず外部（産官学）とも情報を共有し、仏教を通じて諸問題の解決に取り組む、外に向けて情報発信を行うことが宗派、僧侶の責務であると考ええる。

●●ポイント●●

少子高齢化や核家族・一人世帯の増加など、家族の形態は刻々と変化している。そして、軽自動車の販売増加が示すように、家計のデフレは進んでいる。葬儀やお墓でも、直葬や納骨堂が人気を博しており、過去の慣習も変化している。

超高齢化社会が進めば、寺院との関係は希薄化が進むばかりである。その希薄化した隙間をビジネスチャンスとして参入したのが、イオンやおぼうさんどつとこむ等である。

隙間を埋めるヒントは互井氏の講演に共感した人が最も多いところにある。

つまり、宗派・僧侶がすべきことは、お布施や葬儀の意義を伝え、寺院を支える檀家を育てることである。

葬儀やお墓の相談は業者や相談センターなどではなく、「まず、

お寺に相談しよう」という社会通念を育てることが肝要である。

昨年度パネリスト

大和証券(株)

法人サポート部

いしだ よしひろ

石田 佳宏



一九六二年大阪府生まれ。和歌山大学経済学部卒業。株式会社大和総研金融・公共コンサルティング部の主任研究員を経て、現在大和証券株式会

社法人サポート部に在籍。宗教法人を担当しており、宗教法人の税務調査動向、葬儀価格動向などのレポートを研究。

元祖法然上人八百年大遠忌法要が開白

十月二日、元祖法然上人八百年大遠忌法要が浄土宗総本山知恩院（京都市東山区）にて始まった。

大遠忌法要は当初三月二十七日から予定されていたが、東日本大震災の発生により延期となり十月に開白を迎える事になった。本会からは三浦社会人権部次長が参列した。

開白にあたっては法然上人が修行した比叡山青龍寺で採った法灯を僧侶が念仏行脚で運び、御影堂に献灯。法然上人像が安置されている厨子を開扉し献華・献香・献茶等が行われた後、伊藤唯眞浄土門主・総本山知恩院門跡、安井昭雄出雲教区東林寺住職、井原善昭山口教区瑞相寺住職が導師を務め開白法要が行われた。

法要には水冠に七条袈裟の僧侶約百三十人が出仕、阿弥陀経読誦、散華の他に、大遠忌法要でのみお唱えされる独特の節回しでの読経、僧侶が堂内を練り歩く笏念仏が行われ、法然上人のご遺徳に対し報恩の念仏が称えられた。

法要後、伊藤唯眞門跡は法要に



御影堂にて盛大な開白法要が厳修された

参列した寺院檀信徒らを前に募財

への協力に感謝の言葉を述べた後「一向に念仏すべし」という念仏の力が私どもに生きる力を与えてくださっております。また念仏は生き続けている間はその功德が積もる」とし、この大遠忌を契機に次の世代につながるような念仏信仰を確立したい、との垂示を行った。

当日は約二千五百名が参拝、大遠忌法要は十月二十五日まで厳修され、期間中様々な行事が営まれる。知恩院ホームページ

元祖法然上人八百年大遠忌特設サイト

<http://www.chion-in.or.jp/>

第三十一回

千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要

九月十八日、東京千代田区の国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑にて第三十一回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要が浄土真宗本願寺派により厳修され、本会より三浦社会人権部次長が参列した。

法要に先立ち、秋葉忠利前広島市長が記念講演。衆議院議員等を務めた経験から国家間の関係を視点に、世界平和の大切さを語った。法要は橘正信浄土真宗本願寺派

総長を導師に厳修された。大谷光淳浄土真宗本願寺派新門の焼香にはじまり、各国の大使や政財界の来賓、門信徒等が参拝、平和への思いを胸に哀悼の意をささげた。全国より約千二百名が参列した。



記念講演を行う秋葉忠利前広島市長

本会後援 親鸞聖人七百五十回大遠忌・法然上人八百年大遠忌記念 東日本大震災チャリティ・コンサートのお知らせ

第十五回 釈尊を讃えて仏教音楽祭としてチャリティ・コンサートが開催されます。本音楽祭の収益はすべて東日本大震災被災者支援のために寄付されます。

日時 二〇一一年十一月三十日

午後六時開場

会場 築地本願寺本堂

（中央区築地三十五―二）

入場料 二千元

第一部 音楽法要・パイプオルガン演奏等

第二部 千昌夫氏のコンサート

主催 財団法人 仏教伝道協会

後援 築地本願寺 全日本仏教会

東京都仏教連合会

チケットのお申し込み・お問い合わせ先

財団法人 仏教伝道協会

電話 〇三―三四五五―五八五一

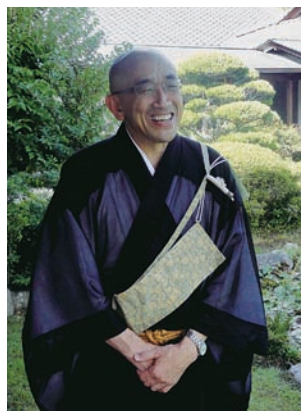


加盟団体をゆく

《第四十五回》華嚴宗

今回は華嚴宗東大寺をお訪ねし、北河原公敬管長、狹川普文宗務長にお話を伺いました。

東大寺は聖武天皇の発願により創建されて以来千二百数十年の歴史がある一方で、本年十月には東大寺ミュージアムを開館するなど一般社会に向けて幅広く情報発信を行っています。



狹川普文華嚴宗宗務長



北河原公敬華嚴宗管長

―貴宗派で継続的に、もしくは最近力を入れている活動に関してお聞かせ下さい

華嚴宗は現在、東大寺を本山とした独立した宗派という扱いになつておりますが、歴史的には南都六大寺（法隆寺・西大寺・唐招提寺・薬師寺・興福寺・東大寺）は相互に非常に密接な関わりがあります。華嚴宗のみならず、南都六大寺全てと連携しながら布教活動ができるように努力しています。

華嚴宗の本山となる東大寺は、大仏殿をはじめとする多くの国宝・重要文化財を有しておりますが、これまで寺内には一般公開できる展示施設がありませんでした。

そこで、東大寺では総合文化センター内に平成二十三年十月十日「東大寺ミュージアム」をオープンし、法華堂の本尊不空罽索観音立像と日光・月光両菩薩像を安置致しました。

東大寺ミュージアムは五室からなる展示室が中心ですが、シンポジウムやコンサート、さまざまな会議でもご使用頂けるとともに、第二室は法華堂の内陣をイメージして設計されています。開館記念特別展「奈良時代の東大寺」を平成二十五年一月十四日まで行い、国宝・重文含む全六十件の宝物を展示しますので、一人でも多くの方に足をお運び頂ければ、と思っております。

また、東大寺の盧舎那大仏を造顕された聖武天皇と光明皇后は、現在の病院や社会福祉施設にあたる悲田院や施薬院を建立され、人々のために尽力されました。

この故事に則り、「社会福祉法人東大寺福祉事業団」を設立し、聖武天皇千二百年御遠忌の記念事業として昭和三十年に「東大寺整肢園」を開設しました。以来、からだに障害を持つ子供たちの治療、療育に取り組み、障害の早期発見・早期治療に力を注ぎ、重度身体障害児の療育（治療と教育）にも積極的に取り組んでいます。現在では東大寺福祉療育病院として、奈良県および近隣地域の障害を持つ



東大寺ミュージアム（写真／植田英介）

た子供たちの医療福祉センター的な役割になっていきます。今後も社会福祉事業へ積極的に関わっていきたいと思います。

―東日本大震災への支援について

震災発生の次の日となる三月十二日に、二月堂修二会（お水取り）行法参拝の皆さまへ管長メッセージとして三つの願いを発信しました。

その一 被災され亡くなられた方々のご冥福を共に祈りましょう。

その二 今、困難な状況におられる方々へ思いをはせ、共

に苦しみを感じましょう。

その三 被災者の支援・被災地復興のために、皆様がそれぞれのお立場で、各々が持つておられる力を尽くしてください。

華厳宗としての被災地支援の取り組みとしては、境内の諸堂に義援金をよびかける募金箱をすぐに設置しました。南都六大寺共同で三月十九日に日本赤十字社奈良県支部へ五百万円の寄託を行いました。

その後、文化財レスキュー事業に対し三百万円、東大寺の本尊盧舎那大仏に塗金された金の産出地である事から交流が深い宮城県涌谷町には二百万円を寄託しました。その他、募金箱と行事収益金とを合わせて、四月二十六日に二百六十万四千五十円を中央共同募金会に寄託しました。

四月七日には、銀行より一億円を借り入れ、全額を義援金として四月十九日に日本赤十字社奈良県支部長の荒井知事に直接お渡ししました。東大寺にとっては大きな金額ですが、返済するたびに震災

を思い出し風化させず、共に苦しみや痛みを分かち合いたいと思います。

東日本大震災物故者慰霊・被災地復興祈願法要を各地で行いました。四月五日に東大寺天皇殿、四月十九日、七月二十二日に奈良国立博物館で行いました。

また、東大寺は鎌倉の鶴岡八幡宮と歴史的に非常に深いつながりがあり、五月二十日に東大寺北河原管長及び吉田茂穂鶴岡八幡宮宮司の連名で共同メッセージを発信し、六月十二日に鎌倉にて僧侶と神職四十名が祈りを捧げ、約二百名が参詣されました。九月十八日には東大寺にて共に祈りを捧げ、この鶴岡八幡宮と東大寺合同の祈りは今後毎年続ける予定です。

直接被災地に入っの支援や法要として、八月二日から四日に宮城県涌谷町、多賀城市、群馬県桐生市に管長以下六名が支援に入り、義援金や支援物資及びうちわ千枚を届け、慰霊と復興祈願法要を厳修、原発避難者の方々と直接交流する機会を頂きました。八月二十九日から三十一日には岩手県・宮城県・福島県の三県に入り、陸前

高田・気仙沼港・いわき市折戸、中之作地区・小名浜港等の各地にて慰霊・復興祈願法要を行い、義援金や絵馬五百枚をお渡ししました。十月下旬には、女川、石巻などに入る予定です。うちわ及び絵馬には、「辛苦同人復興同心」の文字を入れ、困難な状況におられる方々へ思いをはせ、苦しみや痛みを共にし、今後も支援してゆくことを伝えました。

東大寺学園の学生も非常に積極的に被災地でのボランティア活動を行っております。宗派としても被災地への支援を継続していきたいと思います。

— 現代社会に対する思いをお聞かせ下さい

奈良・京都という場所は海外から観光にいらっしゃる方も多いです。華厳宗としても、森本公誠第二一八世管長がイスラム学者であったこともあり、他宗教や海外との交流が深いです。

震災の発生を受け海外では「今は日本に行きたくない」という方も居ますし、逆に「今だからこそ行きたい」という方もいらっしや

います。

今後の復興の為にも、日本は観光立国を目指して海外の方々をより広く受け入れていく必要があるでしょう。奈良では公的機関や一般企業とも連携を深め、例えばスマートフォンを利用して伽藍・仏跡等の説明から、食事・宿泊・買い物等の奈良県全体の名所案内を検討しています。奈良県全体が全国のパッケージになれば、と考えています。

— 全日本仏教会に対するご要望やご意見をお聞かせ下さい

全日本仏教会の加盟団体である全日本仏教青年会とは千僧法要等の取り組みで一緒に活動して、さまざまな素晴らしい活動をなさっているのを目にしております。

仏教界の次世代を担う方々の育成に各団体が丸となるような取り組みが進むと、より明るい未来が開けると確信しております。

華厳宗（東大寺）ホームページ

<http://www.todaiji.or.jp/>

東京電力福島第一原子力発電所 被災寺院対策の会 開催報告

福島県仏教会(三村真城会長)は、九月二十四日(土)午後四時から福島県郡山市内のホテルを会場に「東京電力福島第一原子力発電所被災寺院対策の会」を開催した。

本会からは、長谷川正浩顧問弁護士と奈良慈徹総務部長が出席した。

原発事故三十km圏内には、六十一ヶ寺が存在する。この内、立ち入り禁止の警戒区域二十km圏内には、補償問題の交渉に不参加を表明している一ヶ寺を含め、四十二ヶ寺が立地している。また、三十km圏内の計画的避難区域に十一ヶ寺、緊急避難準備区域に八ヶ寺が立地している。

東電への原発事故賠償金請求は、①東電への直接請求 ②文部科学省の紛争解決センター(東京と郡山の二カ所)による和解仲介 ③民事裁判での損害賠償請求等、原発事故の被災各寺院が個別に行なう方法と、福島県宗教団体連絡協議会(横山俊邦会長・曹洞宗)を通じて行なう団体交渉とがある。個別の方法は、手続きが煩雑で個々

宗派が「良縁」を積極的に後押し 日蓮宗「良縁の集い」開催

十月一日(土)、ホテルグランパシフィックLEDAIBA(東京・台場)において、日蓮宗主催の「第四回良縁の集い」が開催された。当日は寺院の後継者や生涯の伴侶を求める男女約五十名が参加した。

日蓮宗が主催する「良縁の集い」とは、結婚希望の寺院関係者が実際に顔を合わせる場のことだ。

少子化や晩婚化等の社会的事情により、後継者の悩みを抱えている寺院が少なくない中、結婚を希望する寺院関係者が個人情報登録し、希望が合えば紹介するシステムをもつ宗派もあるが、登録者が実際に一堂に会することは珍しい。

日蓮宗では平成十五年より「後継者及び結婚相談情報システム」を開設し、両者の条件が一致したときのみ紹介をしていたが、「実際に会ってみなければわからない」「違った形で出合いを広げて欲しい」という登録者の意見を受け、平成二十年九月六日の第一回から

東京や京都、福岡で開催している。開催にあたっては、厳重な個人情報取り扱いを徹底している。

参加するには予め「後継者及び結婚相談システム」に登録する必要がある、その際に提出される情報には名前や住所、電話番号や家族構成から、酒・タバコといった嗜好品、婚姻歴や入寺後の形態など多岐にわたる質問に回答する。

提出された情報は「守秘義務を徹底し、登録書の管理は専用の部屋を設け厳重に保管(坂手善敬総合相談所主任)」している。当日参加者には、トラブル回避のため個人情報是一切明かさず、ニックネームと出身教区のみを公開し参加する。

参加者からは「参加の目的がわかりやすい」「宗派が主催しているので安心感がある」という声が多数あり、開催について大きな評価を得ていることが窺える。

今後も全国各地で順次開催を予定している。

事務総局録事

九月（十六日～三十日）

十六日▼朝日新聞取材久田氏来局

▼朝日新聞西村氏・アドインターフェイス折原氏来局

▼東映来局

十八日▼浄土真宗本願寺派主催第三十一回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要参列（千鳥ヶ淵戦没者墓苑）

二十日▼自由民主党清和政策研究会との懇親の集い出席（東京プリンスホテル）

二十一日▼鈴木寛参議院議員来局
▼朝日ビジネスソリユーション来局

二十二日▼無料法律相談室

二十四日▼原子力発電所被災寺院対策の会出席（郡山ビユーホテル）

二十六日▼平成二十三年度宗教法人実務研修会へ講師派遣（兵庫県民会館パルテホール）

▼野村証券来局

二十七日▼局内会議

二十八日▼自由民主法曹団九月定

例会出席（自由民主党本部）

二十九日▼比叡山宗教サミット二十五周年記念『世界宗教者平和の祈りの集い』開催準備懇談会出席（京都・新都ホテル）

▼損保ジャパン来局

▼日本宗教連盟幹事会・理事会・参議会

▼朝日ビジネスソリユーション来局

三十日▼仏教ボランティア合掌森山代表来局

十月（一日～十五日）

二日▼元祖法然上人八百年大遠忌法要参列（知恩院）
三日▼日韓仏教交流協議会訪問（鎌倉・光明寺）

▼東映来局

五日▼国際交流審議会

六日▼台湾駐日経済文化代表處「中華民國百年国慶節」祝賀会出席（ホテルオークラ）

▼本願寺宗務首都圏センター職員来局

七日▼曹洞宗大本山總持寺前貫首全日本仏教会第二十七期會長大道晃仙猊下本葬儀参列

（總持寺）

▼局内会議

十一日▼真言宗智山派寺田管長晋山式・祝賀会出席（京都・智積院及びハイアットリージェンシー京都）

▼BNN企画委員会出席（シャンティ国際ボランティア会）

▼平成二十三年度宗教法人制度の運用等に関する調査研究協力者会議へ講師派遣（文化庁）

十二日▼大西孝典参議院議員来局
▼第四十五回仏教伝道文化賞贈呈式出席（仏教伝道センタービル）

▼第四回全日本葬祭業協同組合連合会合同慰霊祭準備委員会出席（本会会議室）

十三日▼無料法律相談室

▼朝日ビジネスソリユーション来局

十四日▼加盟団体顧問弁護士連絡会、人権問題連絡協議会会場視察及び打合せ（京都・永観堂）

▼第二十六回教団行政責任者研修会出席（京都東急ホテル）

表紙写真紹介

「長野県蓼科高原・横谷溪谷の小僧さん」

長野県は蓼科高原。「諏訪富士」と呼ばれる蓼科山のおもとは、美しい水が流れる横谷溪谷があります。溪谷をお散歩していると、松ぼっくりがお供えされたかわい

い小僧さんと出会いました。緑の中に静かに坐る小僧さんと目があつたとき、「すべて繋がっている」ということにハッとしました。山があつて、雨が降り、川が流れ、きれいな水が人々の生活に届く。その水でできたお米や野菜、その水で生きている木や草花……わたしたちが普段みるもの、手にするもの、食べるものは、大きな自然の営みが繋がって届けられたもののなのです。

そのことをよく知っていた昔の人たちは、心からの「ありがとう」と「これからもよろしく願います」を神さまや仏さまに伝え、手を合わせてきたのでしょうか。この豊かな自然の土地に、ほんの少しだけ場所を借りて暮らしているわたしたち。昔の人たちがしてきたように、感謝し、敬い、自然とうまく共存できたらいいなあ。

仏像ガール®

中国佛教協会から「救援基金」へ寄託

8月29日、浅草ビューホテルを会場に日中友好宗教者懇話会（宗懇）主催 中国佛教協会訪日代表団歓迎宴が開催され、本会より有田恵宗理事長、小林正道常務理事、国際部2名が出席した。

訪日代表団は午前中に本会事務所を表敬訪問し、午後2時より浅草寺にて日中合同での東日本大震災物故者追悼慰霊法要を厳修した。

歓迎宴は山田俊和宗懇理事長（中尊寺貫首）の開会の辞に始まり、持田日勇宗懇会長の歓迎挨拶、傳印中国佛教協会会長の挨拶の後、傳印会長から有田理事長に東日本大震災義援金として本会救援基金に79万円（約940万円）の目録贈呈が行われた。有田理事長は御礼とともに日中仏教交流の益々の発展を願う旨謝辞を述べた。



傳印中国佛教協会会長（写真左）より有田恵宗理事長に義援金目録が贈呈された

全日本仏教会後援 「東日本大震災犠牲者 合同慰霊祭」開催

忘れない あの日のこと あの人のこと・・・

東日本大震災犠牲者 合同慰霊祭

3月11日発生した 東日本大震災において 犠牲となられた方々へ
弔いの「祈り」を捧げる合同慰霊祭を行います。
皆様の「祈り」をお届けください。

※この合同慰霊祭は、どなたでもご参加いただけます。

2011年11月5日(土)
14時00分～15時30分(受付13時00分より)
増上寺 光摂殿
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-35

【交通】
JR有明線・東京モノレール/浜崎駅下車徒歩10分
都営地下鉄三田線/豊洲駅下車徒歩3分、芝公園から徒歩3分
都営地下鉄有明線/大江戸線/豊洲駅下車徒歩5分
都営地下鉄日比谷線/豊洲駅下車徒歩10分
都営地下鉄大江戸線/豊洲駅下車徒歩7分
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。お問い合わせ先へお問い合わせください。

【お問い合わせ】事務局/TEL 03-5769-8701 [HP] <http://www.zensoren.or.jp/>
【主催】経済産業大臣認可 全日本葬祭業協同組合連合会 【後援】財団法人 全日本仏教会/東京都仏教連合会

全日本葬祭業協同組合連合会主催の「東日本大震災犠牲者 合同慰霊祭」が11月5日(土)に増上寺光摂殿にて開催されます。東日本大震災において犠牲になられた方々へ、弔いの『祈り』を捧げます。是非御参列くださいませよう、ご案内申し上げます。

開催日時：平成23年11月5日(土)

14時～15時30分

※13時00分より趣旨説明を行ないますので会場受付までお越し下さい。

開催場所：増上寺 光摂殿

主催：経済産業大臣認可
全日本葬祭業協同組合連合会

後援：財団法人全日本仏教会
東京都仏教連合会

参加者：被害に遭われた方のご親族や被災地地域と関係がある方、祈りを捧げたいと想う一般の方。

■問い合わせ先■

経済産業大臣認可 全日本葬祭業協同組合連合会
東京都港区港南2-4-12 港南YKビル4階
[Tel] 03-5769-8701
[Fax] 03-5769-8702
[Hp] <http://www.zensoren.or.jp>
[Mail] zenso-ren@neo.famille.ne.jp